



天竜川中流山地



北部山地自然林



天竜川



引佐丘陵地～低山地



浜名湖・周浜名湖低地



三方原台地～扇状地



遠州灘沿岸砂丘

生物多様性はままつ戦略2018 概要版

発行年月 平成30年4月
編集・発行 浜松市環境部環境政策課
〒432-8023
静岡県浜松市中区鶴江三丁目1-10
E-mail:kankyoku@city.hamamatsu.shizuoka.jp
HP:<http://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp>

この冊子は「生物多様性はままつ戦略2018」をまとめたものです。
詳細は本誌をご覧ください。

生物多様性はままつ 検索



みんなでツナグ自然の恵み プロジェクト進行中!

生物多様性はままつ戦略2018 概要版



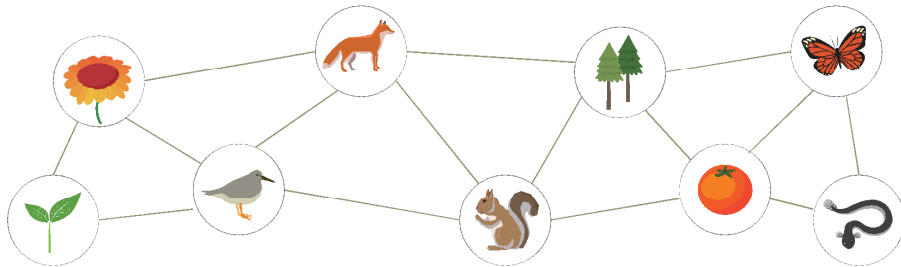
浜松市

生物多様性はままつ戦略とは

浜松の様々な生きものと環境を守り

未来につなげていくプロジェクトのことで。

私たち人間を含めた生きものは地球におよそ3,000万種存在すると考えられています。そして、その全てが網の目のように繋がりが合い、微妙なバランスの上で生きています。このことを生物多様性といいます。「生物多様性はままつ戦略」は、浜松の生物多様性を守り、生きもの、環境、私たち市民、その全てを未来に残す活動をしよう!と策定しました。



生物多様性には3つの段階があり、それらにより地球の豊かな環境が維持されてきました。

<p>1</p> <p>生態系の多様性</p> <p>森林、草原、川、池、湖など様々なタイプの自然環境があること。 浜松は、北側に南アルプス、南側に太平洋、さらには浜名湖や天竜川など、多様な自然に囲まれています。</p>	<p>2</p> <p>種の多様性</p> <p>様々な種類の生きものが生息・生育していること。 浜松には、多彩な自然の中に保護の対象とされる希少種631種を含め、約8,700種もの生きものが暮らしています。</p>	<p>3</p> <p>遺伝子の多様性</p> <p>同じ種類でも遺伝子による様々な違いがあること。 ナミテントウは、個体によって遺伝子が様々なため、同じ種でも星の色や数、体の色が異なります。</p>
---	---	---

生物多様性が与えてくれるもの

空気や水、食べものや飲みもの、木材に洋服の材料など私たちが生きるために必要なものは、全部自然からもらっています。それが生物多様性の恵み（サービス）です。自然の中で癒されたり楽しんだり、それも、恵みの1つです。



実は今、浜松を含め地球のあらゆるところで生物多様性が危機にさらされています。網の目の中の生きものが1つでも消えると取り返しのつかない穴があき、全ての生きものや環境がなくなってしまうかもしれません。

浜松の生物多様性が危ない!

<p>危機 1</p> <p>開発や乱獲による危機</p> <p>人間による開発により、生息地や餌などの減少、環境の悪化、また乱獲や盗掘により、数を減らしている動植物があります。例えばギフチョウは、食草が減るなどの環境の悪化で、市内にあった生息地が激減しています。</p>	<p>危機 2</p> <p>人の関わりの減少による危機</p> <p>人が里山を利用しなくなると、集落のすぐそばまで荒れた林や田畑が広がり、野生動物が近づきやすくなり作物を荒らすことが増えます。また、シカなどの特定の野生生物は増えすぎると植物を食べ尽くしてしまい、森の生態系を壊してしまいます。</p>
<p>危機 3</p> <p>外来生物や化学物質による危機</p> <p>外来生物が在来種の生息環境を奪い、その場所の生態系を乱しています。外来生物のミシシビアカミミガメが住みつき、在来のカメ類が生息地や餌を奪われる、他の生きものが食べられてしまうなどの影響が心配されています。また、除草剤や殺虫剤の散布による野生動物への悪影響も懸念されています。</p>	<p>危機 4</p> <p>気候変動による危機</p> <p>地球温暖化、強い台風の増加、干ばつなどの気候変動によって生態系のバランスが崩れ、悪影響を与えるおそれがあります。三ヶ日みかんは浜松の気候条件に適していることから長年特産物として知られていますが、気候変動により品質の低下や収穫量の減少などが心配されています。</p>

今、浜松はこんなかんじです

海・山・川の豊かな自然に恵まれた浜松。アサリやウナギなどの水産物、全国有数の日照時間に育まれた農産物、良質な木材、さらには豊富な水源を利用した繊維業、楽器・輸送機器などの産業にも大きな影響を与えています。その自然は今、どうなっているのでしょうか？

天竜川
3つのダムが存在し下流域には砂礫河原やワンドなどが分布。
ハヤブサ、コアジサシ、ニホンイシガメ、アユ、スナヤマツメなど

課題
下流の砂礫河原は、希少種コアジサシの繁殖地として利用されており、保全の必要性がある。

北部山地自然林
南アルプスに隣接する山地。ブナ林や亜高山帯植物が残存し天竜川の支流河川の源流域を含む。
アカショウビン、アカイシサンショウウオ、ヤマトイワナ、アカヤシオなど

課題
国有林で自然度の高い植生が分布しているがニホンジカの増加による食害などの影響が懸念される。

引佐丘陵地～低山地
スギ・ヒノキ・コナラ、みかん畑、ため池などが分布。石灰岩地・蛇紋岩地がみられ特有の自然環境を形成。
ルリビタキ、トノサマガエル、ギフチョウ、ヒメヒカゲ、シブカワツツジなど

課題
ギフチョウが生息する二次林では林床植生の変化などにより食草が減るなど生息環境が劣化している。

天竜川中流山地
天竜美林のスギ・ヒノキ植林、気田川、水窪川などの支流を含む。
カモシカ、ムササビ、テン、クマタカ、サンコウチョウ、カジカガエル、アカザなど

課題
龍山・浦川は静岡県指定天然記念物エンシュウジャクナゲの群落に指定されていて、保全の必要性がある。

三方原台地～扇状地
市街地が広がり、段丘斜面の二次林、水田、中小河川、湖沼が分布。
ゴイサギ、ホトケドジョウ、ウチワヤンマ、ツバメシジミ、ミクリなど

課題
土地改変などによる御陣屋川のミクリ群生や周辺の湧水群への影響が懸念される。

遠州灘沿岸砂丘
広々と砂丘が広がり、砂丘植物や海浜性昆虫類が生息する。
ミサゴ、アカウミガメ、カワラハンミョウ、ハマビルガオなど

課題
土砂供給量の減少などにより砂丘が縮小しており、アカウミガメの産卵や砂丘植生への影響が懸念される。

浜名湖・周浜名湖低地
広大な汽水域。干潟やアマモ場、ヨシ原、都田川などの河川沿いに水田が広がる。
ミサゴ、ヤリタナゴ、スジシマドジョウ、ウラギクなど

課題
田畑整備などによる移動経路の分断や生息環境の変化により、ヤリタナゴなどへの影響が懸念される。

天竜杉
春野菜
アカショウビン
エンシュウジャクナゲ
じゃがいも
次郎柿
ミサゴ
うなぎ
あさり
たまねぎ
織維・染色
ヤリタナゴ
楽器・車・バイク

2050年には、こうなりたいです

2013年の戦略策定から5年、目指すゴールに少しずつ近づいています。環境分野だけではなく、様々な方向・分野からたくさんの人と連携し、協力合って、2050年に目指しているのは「海から山まで、多様な生きものと人々の暮らしが共存する都市！」

天竜川
都市からはなれた山地部には手入れされたスギやヒノキの植林地が広がる。
林業の担い手が育成され、活発な林業活動とともに自然環境に配慮した森林づくりが行われている。

北部山地自然林
生態系のバランスが保たれた自然性の高い環境が守られている。
市民に安らぎを与える場として利用されている。

引佐丘陵地～低山地
水田・畑地、果樹園と森林、集落が混在した里地・里山環境が広がる。
自然環境に配慮した農業の展開により、生態系のバランスが保たれた自然環境が形成されている。
地産地消が推進され、農業の担い手が育成され、活発な農業活動が行われる。

天竜川中流山地
清涼な水が流れ、上流と下流、川と海とのつながりが保たれた環境が形成されている。
川と海を行き来する魚や鳥など多様な生きものが生息・生育している。

三方原台地～扇状地
住宅地や道路・公園・企業所有地などに緑が増し身近に豊かな自然が存在する。
市民や事業者など様々な人が自然保護に取組み、交流が行われている。

遠州灘沿岸砂丘
砂浜と松林が連続し、白砂青松の景観が形成される。
アカウミガメを始めとする多様な生きものが生息・生育している。

浜名湖・周浜名湖低地
湖と水田、水路などの農地、斜面林が一体となった里海・里地環境が広がる。
生態系のバランスが保たれ、自然環境に配慮した農水産業が展開される。
豊かな農水産資源が維持されている。

生物多様性はままつ戦略2013で 浜松市が取り組んだ 5つの重点プロジェクト

2013年に戦略を策定後、生物多様性保全に向けた取り組みを5つの重点プロジェクトとして実施してきました。5年経った今、果たして成果はどのくらい出たのでしょうか？また、実施する上で浮かび上がった新たな課題とは？

5つのプロジェクトとその成果

1. 浜松らしい自然を守ろう！プロジェクト

●希少種アカウミガメのふ化率、ギフチョウの確認数が維持できました。

2. 自然と響き合う農・林・水プロジェクト

●民有林のFSC認証面積が日本一になりました。
●富塚椎ノ木谷特別緑地保全地区が良好に維持されています。

3. 里山と生物多様性保全プロジェクト

成果

●希少動物の情報をGIS化し、土地利用事業者に提示できるようになりました。

4. 生きものを見・守りプロジェクト

●幼、保、小、中で自然体験型環境学習を実施しました。

5. みんなで創る！生きものを育む浜松プロジェクト

●環境学習のプログラムの作成や指導者の育成・活動支援をしました。

！ 浮かび上がった、新たな課題

すみかが危ない



！ 外来種のクリハラリス、ヌートリア、アライグマが生息場所を拡大中
課題



！ 新たな場所で鳥獣被害が発生し被害額が増加中
課題



！ 生息数が減少している希少生物の保全活動が必要
課題

しくみが欲しい



！ 市民や事業所が保全活動に対する要望、提案を行えるネットワークの構築
課題

人が足りない



！ 継続して環境保全活動を行い、参加市民を増やしていく必要性あり
課題



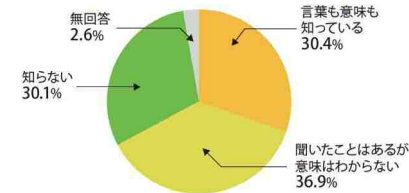
！ エコファーマー認定人数や認定農業者数が減少
課題

保全を進めたいのですが、 残念ながら、少しの人しか生物多様性を知りません

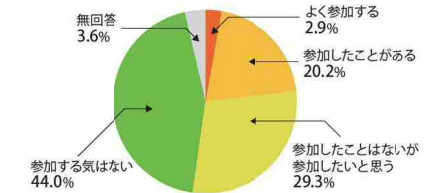
平成29年6月に行った「生物多様性についての市民アンケート」でまだまだ認知度・理解度が低いことがわかりました。

ただ、保全活動に参加したいと思っている市民の皆さんも多いことがわかりました。浜松市としても、市民の皆さんにもっと生物多様性を守る大切さをお知らせし、参加しやすい環境を作っていきます。

「生物多様性」という言葉を知っていますか？



保全活動に参加したことはありますか？



だけど、なんとかして浜松の生物多様性を守りたい！

生物多様性を守らないと、私たちの子供、孫、そのまた子供は、恵みを受けられず大変なことになってしまいます。そんなことにならないように、浜松市では2050年に向け生物多様性を保全するための3つの方針を掲げ、実現していきます！

1

多様な生きものの すみかを守ります

希少生物の保護や外来生物の対策を行います。里地・里山・里海などの生きものすみかを守ることを考えた農林水産業を進めます。



2

守るための しくみを作ります

浜松市、市民、市民団体、事業者、専門家などのみなさんとの連携を進めます。状況を常に把握し、情報を活用するしくみづくりをします。



3

将来につなぐための 人を増やします

保全への理解と行動力UPのために、様々な人へ啓発を行います。生態系を支える人、保全活動の大切さを伝える人など活動を将来につなぐ人を増やします。



浜松の生物多様性を守るには

市民、市民団体 事業者、専門家など みなさんのちからが必要です

浜松の生物多様性を保全するためには、みなさんそれぞれの立場からのちからが必要なんです。たくさんの方が少しずつ活動すれば、プロジェクトは成功します。具体的になにをすればいいのかわからないことではないんです。

環境に優しい生活にトライしてほしい！

市民団体や事業者がその地域の生きもの、環境を守るための活動を行っています。自然に触れ、楽しみながら保全活動に参加してみませんか？



- 浜名湖環境保全、地産地消の食育 (NPO法人はまなこ里海の会)
- 引佐北部鎮玉地域ゲンジボタル保全活動 (NPO法人ひずるしい鎮玉) ほか



市民
のみなさんへ

自然に親しむ



海、山、川などの身近な自然や生きものに触れましょう。

最期まで飼う



ペットは最期まで飼いましょう。捨てたペットが生態系を乱す恐れがあります。

えさをあげない



野生動物への餌やり、保護、別の場所への移動はやめましょう。

選んで買う



環境や社会に配慮した製品やサービスを選びましょう。

Coolを選ぶ



地球温暖化を防止するため、CO₂の排出が少ない生活を選びましょう。

浜松産を選ぶ



地産地消も、保全活動の1つです。浜松産を選んでみましょう。



市民団体
のみなさんへ

地域を把握した専門集団として、浜松全体を守ってほしい！

モニタリング参加



浜松全域のモニタリングなどへ積極的に参加しましょう。

市民や事業者へ啓発



知識を活かし、市民や事業者への啓発活動を行いましょう。



事業者
のみなさんへ

生物多様性に配慮した事業運営に取り組んでほしい！

配慮した事業運営



環境に優しい製品の開発を心がけましょう。



保有する土地の緑化を進めましょう。

CSR活動として貢献

本業を通じた社会貢献や環境マネジメントの他、環境保全活動への人的・金銭的協力など、CSR活動として地域の生物多様性に貢献しましょう。支援を必要としている市民団体と浜松市を通して繋がる「浜松市生きものパートナーシップ(仮称)」制度を利用できます。(P9参照)



専門家
のみなさんへ

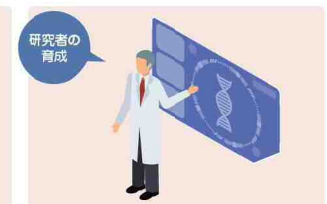
専門的な技術や知識を活かして保全に貢献してほしい！

技術協力



技術協力や情報提供をしましょう。

研究者の育成



次世代を担う研究者を育成しましょう。



生物多様性の保全と政策を総合的・計画的に推進します

- 浜松市自らが事業者及び消費者として、事業実施の際に率先した環境への配慮行動を実践します。
- 環境の教育・学習の推進、情報の提供をします。
- 各主体の活動への支援やパートナーシップの構築を推進します。
- 保全活動協力者を増やすべく、啓発活動を行います。

みんなで協力して 新しい重点プロジェクトの ミッションをクリアしよう!

2013戦略からの新たな課題、市民アンケートやタウンミーティングでの意見をふまえ、新しい3つのプロジェクトを策定しました。その中のミッションをご紹介します。浜松市全体でプロジェクトのミッションをクリアしていきましょう!

Mission **浜松「生きもの観察マップ」を作成しよう!**

市民 身近な生きもの発見!
ジオタグ付き写真を市に送信
(ツバメ類、カエル類、赤とんぼ類)

市 みなさんからの写真で身近な
生きもの観察マップを作成!
浜松市HPIにアップ

ねらい 市内の生きものの生息状況の
変化を知り、変化を見逃さない!
市民の生きものへの関心度UP!

市民が自ら調べるまち

Mission **外来種から街を守ろう!**

(例)クリハラリスの場合

市民 クリハラリス発見!

市 捕獲罠の貸し出し

市民 捕獲成功!

市 生息状況を把握し
情報を整理

クリハラリス引き渡し
ジオタグ付き写真データ提供

ねらい 外来生物の生息数
増加、生息域拡大
を食い止める!

市民が自ら守るまち

Mission **パートナーと繋がり、協力して活動しよう!**

**市民、事業者、行政が
つながるまち**

支援募集!
いい活動!
支援したい!

支援を受ける

両者間で調整

CSR活動に繋がる

協力締結
浜松市生きものパートナーシップ(仮称)

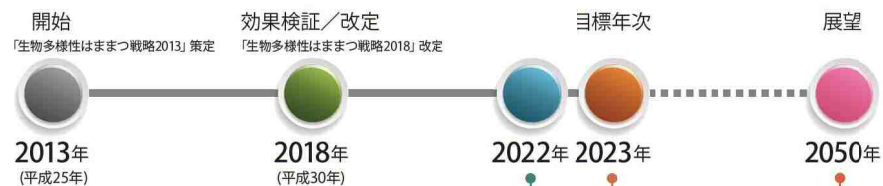
ねらい 資金や人手不足を解消し
保全活動が推進できる!

人手OK!

2050

2050年にむけて プロジェクトは進行中です

生きものの移動や定着、生態系の変化や回復は数十年、またはそれ以上の長い時間を要します。2050年にゴールを想定し、様々な方向や分野からたくさんの人と共に目指すべき将来像を実現していきます。



取組み	指標	現状	ここまでに達成したい!	ゴール
生きものの生息・生育場所の保全	ヤリタナゴの生息数	64個体	維持または増加	「海から山まで、多様な生きものと人々の暮らしが共存する都市」
持続可能な農林水産業の保全と良好な生態系の保全	多面的機能支払交付金※1の交付面積	農地維持: 3,187ha 資源向上: 共同: 2,718ha 長寿命化: 4,247ha	10%増加	
都市部の緑地・水域の保全と連結・拡充	緑地保全面積 ※2	1,373ha	維持または増加	
様々な主体との円滑な連携、活動支援	浜松市生きものパートナーシップ(仮称)の協定を締結した件数	0件	3件	
生物多様性に関わる情報の収集・蓄積・活用	市民参加型調査に参加した人数	0人/年	300人/年	
地域の生態系を支える人づくり	環境学習指導者による生物多様性保全学習会の開催・参加回数	1,803回	10%増加	
生物多様性の大切さを理解し、行動する市民の育成	「生物多様性」の理解度	30.4%	60%超	

■戦略の進捗管理指標
 ※1: 農業・農村は、国土の保全、水源の涵養、自然環境の保全などの多面的機能を有しており、この機能の維持・発揮を図るための地域の共同活動に対する支援に係る交付金を指す。
 ※2: 特別緑地保全地区、風致地区、生産緑地地区、保存樹・保存樹林、市民の森の面積を合計したもの。
 注: 目標について各年度で見直すことができるものとする。

